

病害虫発生予察情報予報第 8 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
オオムギ	網斑病	やや多	並	133~134	 網斑病
	縞萎縮病	やや少	並	135~136	
	斑葉病	並	並	134~135	
コムギ	シロトビムシ類	やや少	並	137	
	縞萎縮病	並	並	135~136	
1. シロトビムシ類 常発圃場（コムギ、ハダカムギ等）では、種子粉衣または塗沫処理を徹底する。					
麦類全般	1. 種子伝染性病害（オオムギ網斑病、オオムギ斑葉病及び麦類裸黒穂病） 健全種子を使用するとともに、種子消毒を徹底する（防除のてびきp129~130参照）。				
大豆	1. 紫斑病 適期収穫を行い、乾燥施設へ速やかに搬入する。				

作物名	病害虫名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
タマネギ	べと病	並	並	260~262	
	ボトリチス葉枯症	並	並	263	
	ネギアザミウマ	多	やや多	270~271	
1. べと病 本圃での発生を抑えるために、計画的に薬剤防除を実施する（平成30年8月30日付け病害虫対策資料第5号参照）。					
イチゴ（本圃）	ハダニ類	並	並	208~209	 ハダニ類
	うどんこ病	やや少	やや多	198~200	
	アブラムシ類	多	多	213~214	
1. ハダニ類 一部の圃場で発生が認められる。発生初期に防除を徹底する。また、天敵を利用する圃場では有効薬剤によりハダニの密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵（カブリダニ類）を放飼する（平成30年9月11日付け防除対策資料第6号参照）。					
2. アブラムシ類 定植後、発生が多く推移している。果梗での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	やや少	並	178~179	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	多	多	176~178	
	褐斑病	並	並	181~182	
	アザミウマ類	多	多	190~191	
	コナジラミ類	並	やや多	189~190	
1. ミナミキイロアザミウマ、黄化えそ病 黄化えそ病が多発生している圃場がある。罹病株は、早急に処分するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。また、次作での発生を防ぐため、キルパーを用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、18日以上（地温15℃の場合）空けてから定植する。					
トマト	コナジラミ類	並	並	p151~153 p228~230	1. ウイルス病媒介虫（コナジラミ類、アザミウマ類） ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、媒介虫に対する薬剤防除を徹底する。
ナス	アザミウマ類	並	やや多	160~165 247~248	
	コナジラミ類	並	並	157~159 248~249	
野菜 花き 共通	チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ、 オオタバコガ、 シロイチモジヨトウ)	やや多	やや多	162, 164 仔ゴ* : 211~213 ハス : 246~247 アスハラガス : 316~ 317, 320 キ : 394~395	 シロイチモジ ヨトウ
	1. チョウ目害虫 平成30年9月26日付け病虫害対策資料第7号参照。				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	11月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	並	並	386~387	 クロゲハナアザミウマ
	アザミウマ類	やや多	並	391~392	
	アブラムシ類	並	やや多	393~394	
	ハダニ類	やや少	並	392~393	
	ハモグリバエ類	並	並	395~396	
	チョウ目害虫	並	並	394~395 162~164	
1. アザミウマ類 多くの圃場で発生が認められる。発生状況を随時確認し、低密度時からの防除を実施する。特に、クロゲハナアザミウマは葉裏や生長点付近に生息しているので、防除を行う際はそれら部位にもかかるよう丁寧に散布を行う。					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

○平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

○農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
 ○発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

○各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

○1～4ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

11月の気象条件

○病害虫の発生に関与する11月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年10月24日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における11月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (12.9℃)	50	高い
降水量	30	40 (76 mm)	30	並

Ⅲ. 11月の予報

オオムギ

1. 網斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 30年産での発生の現況

①定期調査(平成30年4月20～23日調査)

発生茎率：66.2%（平年49.9%、H29 2.8%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) トリフミン水和剤による種子消毒を徹底する(特記事項（麦類全般）参照）。

コムギ

1. シロトビムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 30年産小麦での発生の現況（図1参照）

発生圃場率 0%（平年2.8%、29年産0.5%）

平年比：少（-） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 播種時期は遅くならないようにする。

(2) 被害が多い圃場では、芽出し播きや芽出し乾燥播きを行う。

(3) 被害が著しい圃場では、オオムギを作付けする。

(4) その他防除対策については、特記事項を参照する。

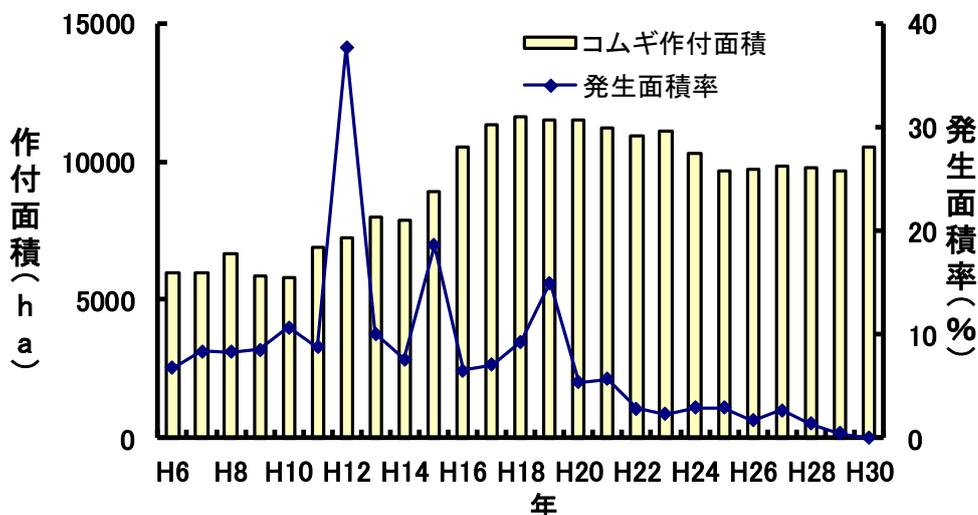


図1 シロトビムシ類のコムギでの発生面積率の年次推移

タマネギ

(定期調査 16 育苗圃場)
調査日：10月23日～24日



1. ベと病 (本文掲載)

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

(11月に発生する可能性は低い、苗床や本圃で感染する可能性がある。)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いとみられる。(±～+)

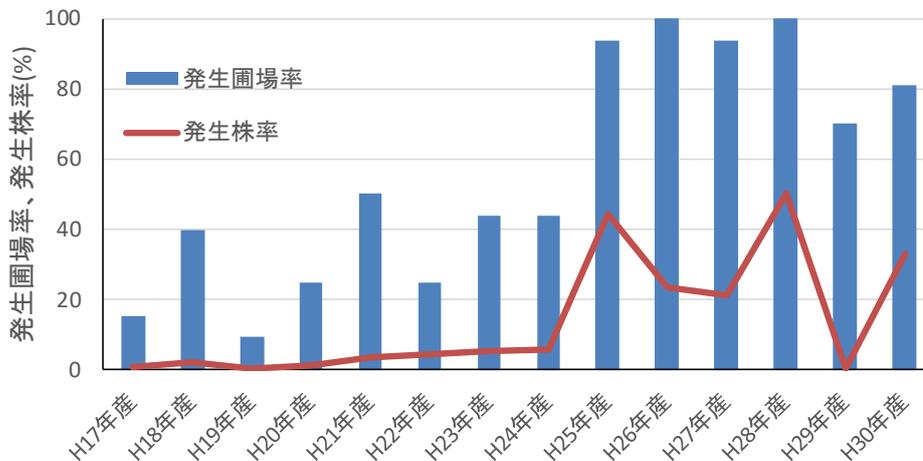


図1 タマネギベと病発生圃場率と発生株率の年次推移

※) 4月下旬の発生圃場率と発生株率を示す。

(3) 11月の気象条件

降水量が平年並で、並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

2. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況 (図1参照)

発生株率：0% (平年0%、前年0%)

平年比：並(±) 前年比：並(±)

(2) 11月の気象予報

気温が高く、降水量が平年並で並発生の条件(±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 育苗期から防除を徹底する。

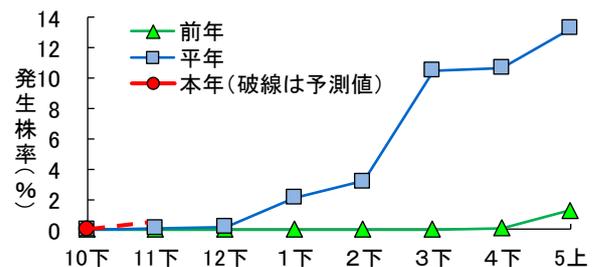


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移

注) 4月下旬以降は、中晩生品種を中心に調査

3. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況（図1参照）

発生株率：0.1%（平年0.3%、前年0%）

平年比：やや少（一～±）

前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

気温が高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本圃へ本虫を持ち込まないように、苗床での防除を徹底する。

(2) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているの、薬剤のかけむらがないように散布する。

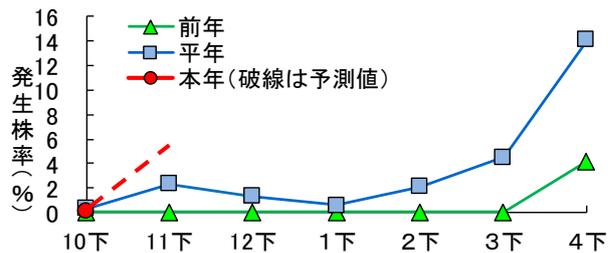


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 4月下旬以降は、中晩生品種を中心に調査

イチゴ（本圃）

（定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場）

調査日：10月22～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.4%（平年4.9%、前年3.5%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照。

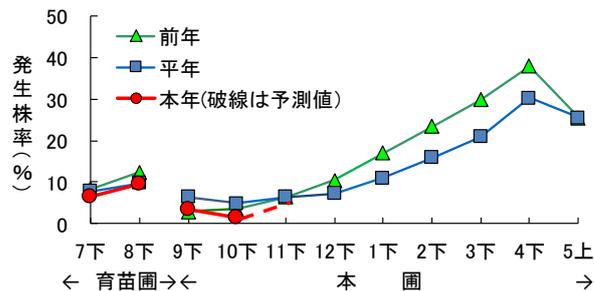


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：2.4%（平年9.0%、前年2.2%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果実での発生を防ぐため、頂果房開花前までの防除を徹底する。

(2) 10～14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

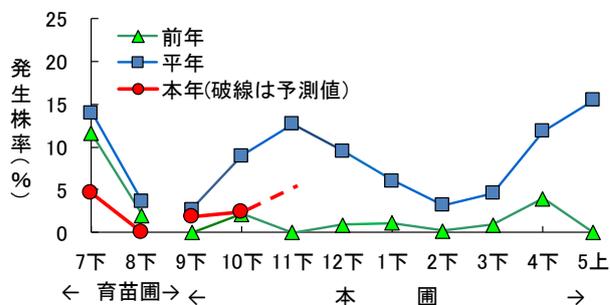


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：5.9%（平年1.5%、前年1.4%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

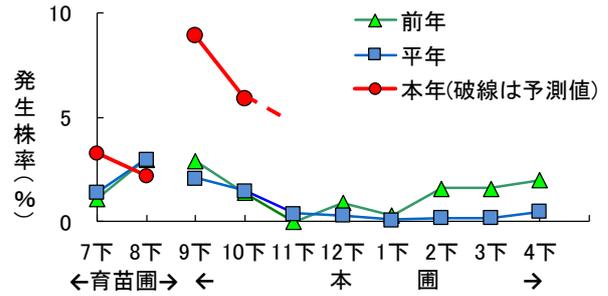


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 薬剤防除の際は、ミツバチや天敵に対する影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P541～544）。
 - (2) その他については、特記事項を参照。

キュウリ（抑制）

（定期調査6圃場）
調査日：10月22日～24日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：4.2%（平年18.2%、前年7.9%）
平年比：少〈-〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 11月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 適正な湿度管理に努める。

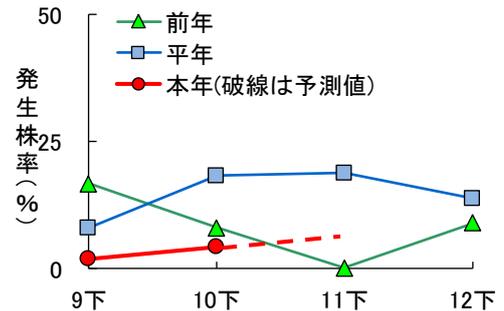


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：33.3%（平年21.0%、前年19.3%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉
 - (2) 11月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 硫黄粒剤や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。

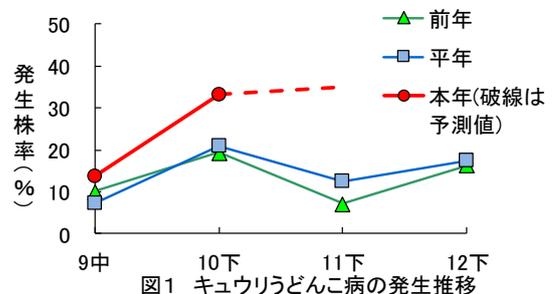
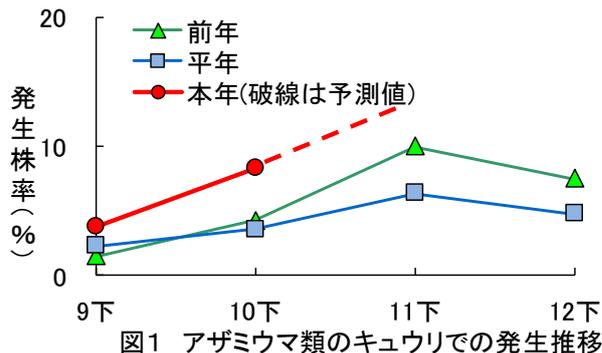


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

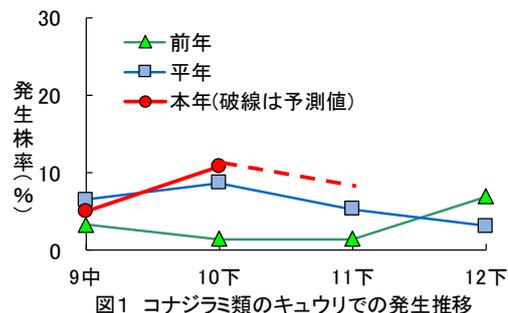
3. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：8.3%（平年3.6%、前年4.3%）
平年比：多<+> 前年比：多<+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。



4. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：10.8%（平年8.7%、前年1.4%）
平年比：並<±> 前年比：やや多<±~+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 低密度時に防除を徹底する。



トマト

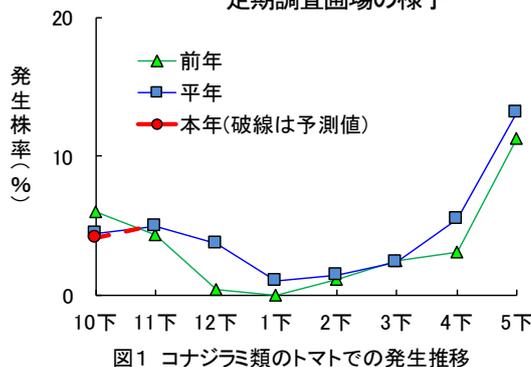
定期調査：7 圃場、防除員4 圃場
調査日：10月22~24日



定期調査圃場の様子

1. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：4.1%（平年4.4%、前年6.0%）
平年比：並<±> 前年比：並<±>
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。



ナス（促成）

定期調査：11 圃場
調査日：10月18~23日



定期調査圃場の様子

1. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：17.7%（平年23.0%、前年17.9%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部を防虫ネットで被覆し、ハウスへの侵入を防止する。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

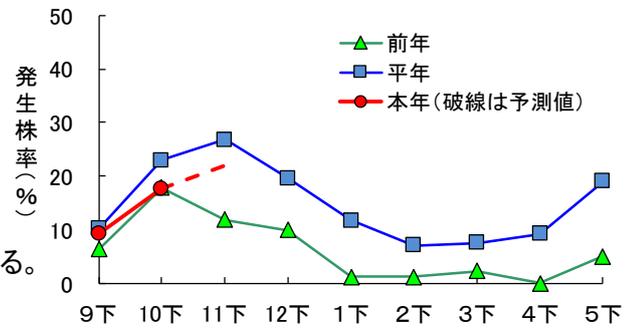


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：44.5%（平年52.0%、前年57.9%）

平年比：並<±> 前年比：やや少<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) アザミウマ類の項と同じ。

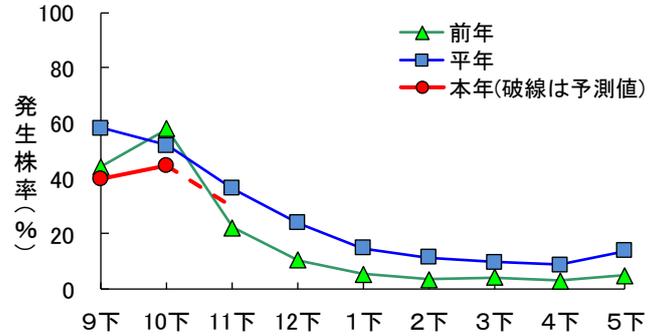


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

野菜・花き共通

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、材バコガ、シイロシヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1~4参照）

作物名	食害株率(%)	平年比	前年比	平年値(%)	前年値(%)
イチゴ	16.5	多<+>	やや多<±~+>	7.2	11.5
ナス	10.0	並<±>	やや多<±~+>	8.2	6.4
アスパラガス	0.6	並<±>	並<±>	0.2	0
キク	2.0	並<±>	やや少<一~±>	1.5	3.0

②フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの10月の誘殺数は、平年並で推移している（図5~6）。<±>

(2) 11月の気象予報

気温が高く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 平成30年9月26日付け病害虫対策資料第7号参照

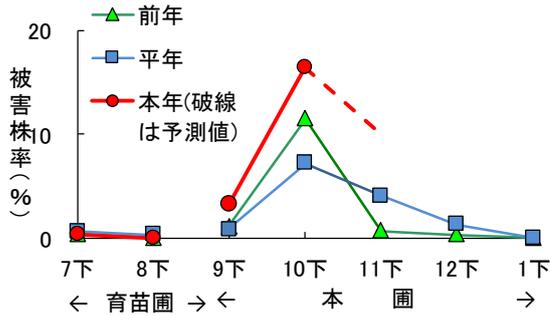


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

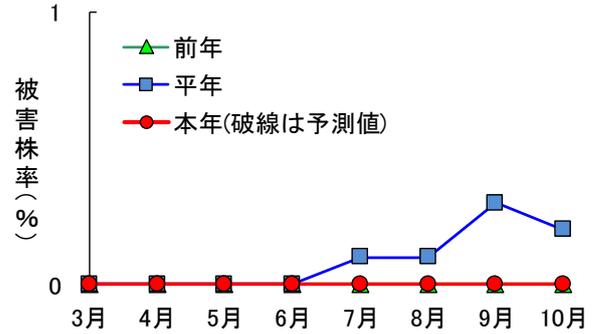


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの被害株率

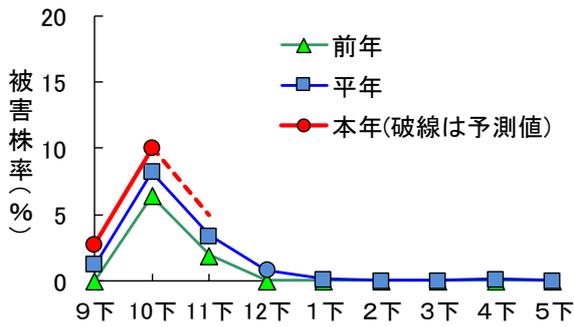


図3 チョウ目害虫によるナシの被害株率の推移

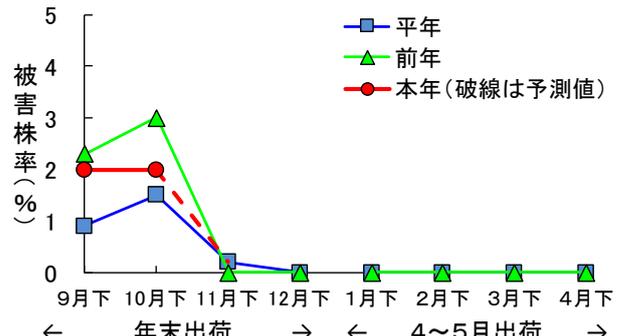


図4 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

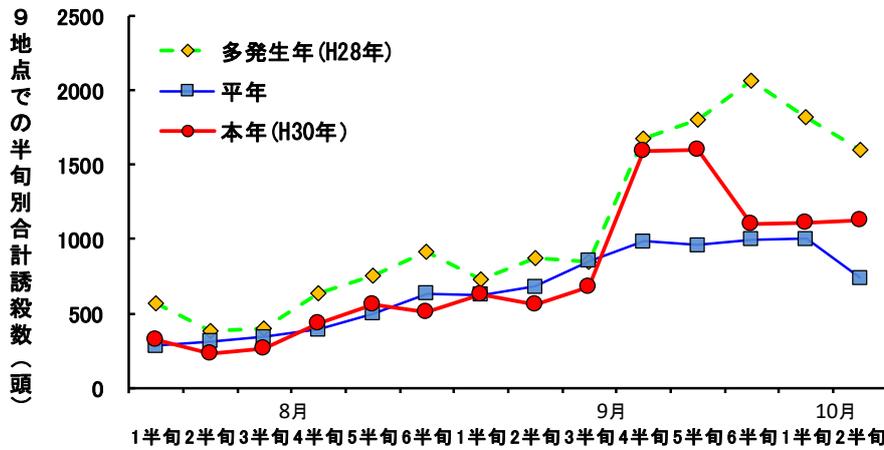


図5 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数 (10月2半旬まで) (農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。)

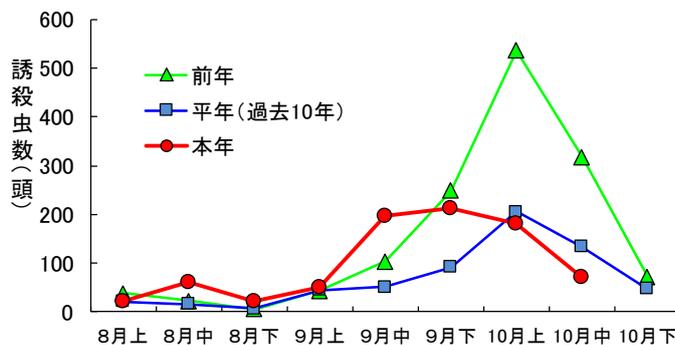


図6 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数 (病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

キク

定期調査 (8 圃場)
調査日: 10月18~23日



1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 0% (平年 0%、前年 0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 11月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、発生前から薬剤を定期的に散布する。散布する際は、葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

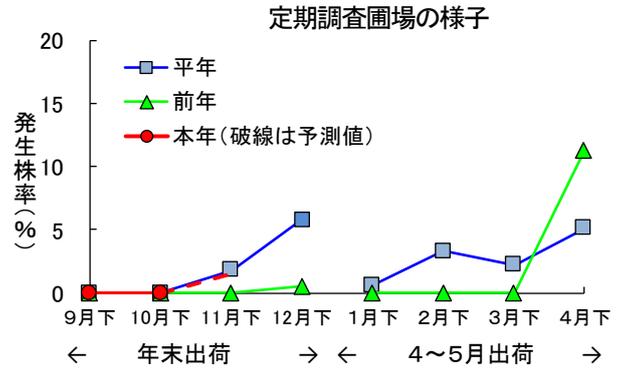


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 5.8% (平年 4.0%、前年 4.5%)

平年比: やや多 (±~+) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病 (TSWV)・茎えそ病 (CSNV) の発病株は早急に取り除き、媒介虫を対象とした薬剤防除を実施する。
- (2) その他については、特記事項を参照する。

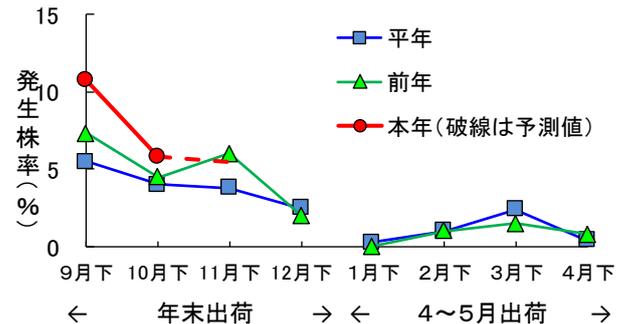


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 3.5% (平年 12.4%、前年 0.8%)

平年比: やや少 (-~±) 前年比: 並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

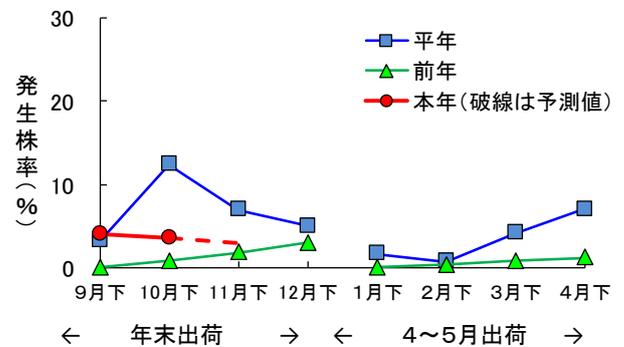


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

4. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

被害株率 2.0%（平年 1.5%、前年 3.0%）

平年比：並（±） 前年比：やや少（-～±）

②フェロモントラップによる誘殺数

野菜・花き共通の項目参照（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 野菜・花き共通の特記事項を参照。

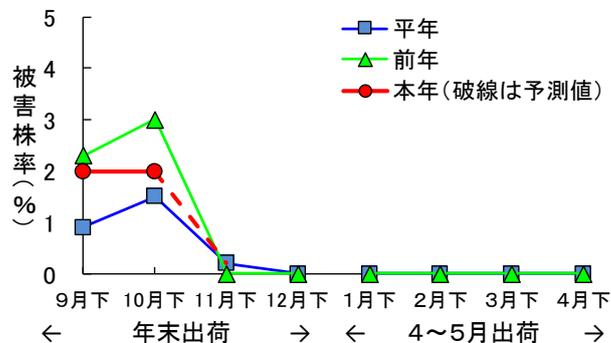


図1 チョウ目害虫によるキクでの被害株率の推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp